

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成22年10月〇日(〇)

2 学年・組 第3学年〇組

3 指導事項(単元の目標)

(1) 読むこと エ

- ・ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

(2) 国語の特質に関する事項 第一学年 イ(ウ)

- ・ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

4 単元名 状況に生きる『故郷』

5 単元の目標を達成させるための言語活動

- 人間の生き方について、座談会形式の話し合いで記録をとり、「今すぐ読みたい『故郷』」というプリントを作って自分の考えを発表すること。

6 単元の評価規準(目標を達成した時の子どもの姿)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">○ 作者や作品の背景にある時代の状況に興味をもって読もうとしている。○ 座談会形式の話し合いや単元の終末の全体交流を通して、自分の考えをもとうとしている。	<ul style="list-style-type: none">○ 人間は、時代の状況の中で生きていることを理解し、登場人物のさまざまな生き方や、作者の考えを読み取って、自分の考えをもっている。	<ul style="list-style-type: none">○ その場の状況や登場人物の心情を表すのに効果的な語句や表現が使われていることに気付いている。

7 単元に関して

- 児童・生徒の状況
 - ・ 情報や考えをまとめていく言語活動に積極的に取り組もうとすること：第1学年の時から、文学的な文章、説明的な文章どちらにおいても、さまざまな言語活動を取り入れてきたので、話し合っって何かを作り、全体の前で発表するということに対しての抵抗は少ないと思われる。また、どんな言語活動に対しても、自分たちなりの工夫をしようとする姿勢が見られる。
 - ・ その時代の状況の中での登場人物の生き方や、作者の考えを読み取り、自分の考えをもつこと：第3学年の最初に学習した『握手』でも、太平洋戦争という時代を考えながら、明るく生きる登場人物の姿を読み取る学習をしたが、細かい部分にまで思いを馳せることのできた生徒は二分の一ほどであり、時代の状況に浸って作品を読むことは十分にできていない。
 - ・ 効果的な語句や表現が使われていることに気付くこと：第2学年で学習した『雨の日と青い鳥』では、「描写に着目すること」を中心に学習したが、その後は、とりたてて語句や表現を中心に読んでいくという学習の機会が少なく、学習の定着状況が十分に把握できていない。

- 教材の価値
 - その時代の状況の中での登場人物の生き方や、作者の考えを読み取ること：二十世紀前半の中国という、現代の中学生の生きる世界とは全く違った状況が舞台でありながら、登場人物に魅力があり、心情や行動の変化など、人物に寄りそって読み進めることができる。「自分の置かれた状況の中でどのように生きるのがよいのか」を考えることができる教材である。
 - さまざまな状況の中での人間の生き方について、自分の考えをもつこと：登場人物は、過酷な時代の状況の中で「流される者」「打ち勝つために手段を選ばない者」「耐える者」「その状況を変えようとする者」などさまざまであり、これほどの時代にでも共通することである。今の時代の状況に思いを馳せ、自分の生き方を考えることができる教材である。
 - 効果的な語句や表現が使われていることに気付くこと：翻訳文学ではあるが、情景描写による登場人物の心情の暗示や、その人物の生き方が胸に迫る人物描写など、効果的な語句や表現に着目することが、作品の読み取りにつながることを理解させるのにふさわしい教材である。

8 児童・生徒の状況と教材の価値を勘案した単元の目標を達成させるための指導の工夫

- 時代の状況や、作者の考えを読み取るために：
 - 時代の状況については、本文の読み取りの中で、作者については、本文の読み取り後に資料を読ませる。
- さまざまな状況の中での人間の生き方について、自分の考えを表現するために：
 - 第1時から3時間に渡り、「さまざまな状況の中での人間の生き方」についての考えを書かせて、第4時の座談会でのテーマになるキーワードをつかませる。
 - 作品を読んで考えたことを、グループごとに柱をたてて話し合い、それを参考にして「今すぐ読みたい『故郷』」というプリントを作成させる。
- 効果的な語句や表現が使われていることに気付くために：
 - ・冒頭の「帰郷」の場面では、情景描写の中の注目すべき表現を別の言葉に言い換えて説明させる。
 - ・ルントウとの再会の場面では、人物描写に即してルントウの人物イメージを絵で表現させ、その後の主人公の感情の理解に役立てる。

9 単元の学習と評価の計画 (全6時間)

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準 [評価方法]
			・国語 意欲への 態度 関心	読む 能力	・の言 技知語 能識に ・つ 理い 解て	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 今までに学習した文学教材を思い出し、どのような読み方をしたかを確認する。 本教材の学習のねらいを知る 描写に注目しながら第一・二場面を読み、「わたし」の心情や置かれている状況を考える。 	○		○	その場の状況や登場人物の心情を表すのに使われている語句が、どのような効果をもっているかを考えようとしている。 [行動観察]
	2	<ul style="list-style-type: none"> 第三場面を読み、子供時代のルントウの人物像をつかむ。 描写に着目して第四場面を読み、ヤンお婆さんの変化をつかむ。 資料を使ってこの時代の中国の状況を知る。 		○		描写に着目すること、時代の状況を知ること、登場人物の生き方について読み取っている。 [ワークシート・行動観察]
	3	<ul style="list-style-type: none"> 第五場面～第六場面前半を読んで「わたし」とルントウの関係の変化をつかみ、その原因となった時代の状況について考える。 		○		その時代の状況を踏まえた上で、描写や心情を表す言葉に着目し、登場人物の関係の変化を読み取っている。 [ワークシート・行動観察]
	4	<ul style="list-style-type: none"> 第六場面後半を読んで「わたし」のいう「希望」とは何かを考え、作者がこの作品にこめた思いを理解する。 これまでの学習を元にして、さまざまな状況での人間の生き方について、記録をとりながら座談会形式で話し合う。【本時】 		○		作者の考えを読み取り、話し合うことによって自分の考えをまとめている。 [行動観察・話し合いの記録]
二	5	<ul style="list-style-type: none"> 前回の話し合いを参考にし、各自で「今すぐ読みたい『故郷』」のプリントを作る。 	○			自分はこの作品から何を読み取ったのかを、人に推薦する形で文章や図にまとめている。 [ワークシート]
	6	<ul style="list-style-type: none"> プリントを元にして、それぞれの意見を発表し、全体の中で交流する。 		○		様々な考えを交流することによって、状況の中の人間の生き方に興味をもち、自分なりの考えを表現している。 [行動観察・発表の記録]

10 本時の目標

- 作者がこの作品にこめた思いを理解し、座談会形式の話し合いを通じて、さまざまな状況での人間の生き方について自分の考えをもつことができる。

11 本時の目標を達成するための言語活動

- 作者が作品にこめた思いを理解するために、比喩的な表現の内容を表に整理すること。
- 状況の中の人間の生き方について、自分なりの考えをもつために、小グループの座談会形式で話し合うこと。

12 本時の学習展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準 [評価方法]
確認 意欲付け	<p>1 前時の学習内容を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第五場面～第六場面前半で、「わたし」がルントウの間の隔たりを知ったこと、またその原因となった時代の状況など、前時で学習した内容を思い出させる。 第六場面後半での「わたし」の思いが作者の考えにつながっていることに気づき、人間の生き方について自分の考えをもつことを確認する。 	
展開	<p>3 第六場面後半を読み、主人公の考えを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わたし」が若い世代に望む「新しい生活」とはどのようなものかを読み取る。 「わたし」とルントウの望むものを比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した具体的な登場人物の生活を例にして、「願わない生活」の対極にあるものから考えさせる。 二人の望むものの違いを表にして比較し、整理させる。 	
「わたし」のいう「希望」とはどのようなものだろう。			
	<ul style="list-style-type: none"> 「希望」を「道」にたとえている部分について、比喩の内容を読み取る。 <p>4 「わたし」の言葉は、作者の生き方に基づいたものであることを知る。</p> <p>5 状況の中での人間の生き方について、話し合い、自分の考えを広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 比喩の一つ一つを実際の内容に置き換え、「わたし」のいう「希望」がどのような社会を望んだものなのかを読み取らせる。 文学作品は「虚構」でも、その背景には作者の生きる現実世界や状況があり、特に『故郷』では作者の考えを読み取ることが大切であることを認識させる。 	
状況の中での人間の生き方について、座談会形式の話し合いで出た意見をもとに、自分の考えを広げよう。			
	<ul style="list-style-type: none"> 人間の生き方について、座談会形式の話し合いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのための細かいテーマを教師側から提示し、それに沿って話し合った過程を記録させる。 記録はすべて次回プリントで紹介し、自分の考えを広げる手だてとさせる。 C：一面的になっている部分について、考えが広がるような視点を示す。 	<p>読</p> <p>A：自分の置かれた状況の中で、それを変えようとする主人公の生き方を踏まえ、人間の生き方について、他者の意見を参考に、自分の考えを広げている。</p> <p>B：人間の生き方について話し合い、自分の意見をもっている。</p>

日常化 一般化	6 本時の学習を振り返り、 次時の学習を確認する。	・次時は、本時の学習で理 解した作者の考えや、作 品を読んでもった、人間 の生き方についての考え を、作品の良さを紹介す る形で整理することを予 告する。	
------------	------------------------------	---	--